平成28年度森林吸収源インベントリ情報整備事業土壌等調査に関するブロック別実技講習会（中部・近畿・中国・四国）

開催日　平成28年8月9日（火）～10日（水）
場所　京都府亀岡市（調査地点コード 260145）
京都府綾部市（調査地点コード 260155）
講師　大貫・石塚・釣田・山下〔森林総研本所〕、酒井(寿)・稲垣(善)〔森林総研四国支所〕
参加者　杉万・北井・田中・田屋・中村・徳永〔(株)一成〕

● 概要

平成28年度森林吸収源インベントリ情報整備事業土壌等調査に係る、中部・近畿および中国・四国ブロックの実技講習会を、試料収集を受託した事業者（株式会社一成）を対象として実施した。

1日目は京都府亀岡市の調査地点で実技講習会を行った。講師が主体となって作業を実演し、特に注意すべき点などを具体的に説明した。当日は8:30に集合して簡単なミーティングを行い、10:20頃に予定よりやや遅れて調査プロットに到着した。調査プロットへのルートは、過去の調査で得られた情報を参考としたが、越える必要のない尾根を登るなど、結果的にかなり遠回りして余計な体力を消耗してしまった。過去の情報だけに頼るのではなく、あらかじめ周辺の地形図を精査しておくなどの工夫が必要であった。また、こうした情報は将来の再調査にも役立つため、野帳へ記載して報告するよう依頼した。講習は中心杭と外周杭、植生の確認後に東西・南北方向で2チームに分かれて概況・ライン調査・枯死木調査について説明・実演した。その後、東西南北で4チームに分かれて土壌炭素蓄積量調査の実演を行った。土壌調査後にコンポジット試料の作成法について説明し、16:00に作業終了となった。なお、コンポジット試料を作成する際にラベルの確認がおろそかになり、異なる深度の土壌を混合してしまう恐れがあった。撮影時のチェックで気づくことができたものの、特にこの作業は何重にもチェックして誤りが生じないよう要請した。

2日目の講習会は京都府綾部市の調査地点で実施した。事業者が主体となって作業を行い、講師は必要に応じて修正事項を指摘した。10:00に調査プロットへ到着して調査を開始した。概況・ライン調査を全員が参加して実施したのち、1日目と同様、複数のチームに分かれて枯死木調査と土壌炭素蓄積量調査を行った。なお、化学性試料を採取する際、断面の奥に向かって深度方向に深く掘りすぎてしまう傾向があった。特に0-5 cmと5-15 cmは斜面傾斜に沿った採取が必要であるため、折尺を用いて常に深度をチェックしながら注意深く掘り進めるよう要請した。14：30には現場での作業を終えて下山し、簡単なミーティングと反省会を行って講習会は終了となった。

講習中は参加者から様々な質問が出されたが、その多くはマニュアルに記載されている内容であり、講師とともに確認することで解決できた。以下に受講者からの主な意見・疑

問点とその回答を示す。

Q.　LFH の層厚の測定が難しい。

A.　実際には非常に不均一に堆積しているため、断面だけでなく、50cm 方形区の状況もよく観察しながらできるだけ平均的な値を記載するようにする。

Q.　採土円筒試料の採取時のはみ出た礫はどのように処理するか？

A.　今回の調査地点のように比較的柔らかい風化花崗岩が母材であった場合、剪定バサミ等で切り取る必要がある。

Q.　採土円筒試料の採取時のはみ出た礫はどのように処理するか？

A.　今回の調査地点のように比較的柔らかい風化花崗岩が母材であった場合、剪定バサミ等で切り取る必要がある。

Q.　初日の枯死木調査において、株立ちの木で、1 本だけ枯れている場合はどう扱うのか？

A.　株立ちの幹のうちの何本かが枯れている場合、 1）高さ（or 斜立の場合は幹長）1.5m よりも高い場合は立枯木とする。 2）1.5m 以下の場合は、根株としてカウントしない。

● 記録写真

概況・ライン調査の講習（亀岡市）

枯死木調査の講習（亀岡市）

土壌炭素蓄積量調査の講習（亀岡市）

コンポジット試料の作成の様子（亀岡市）

調査プロットへのルート（綾部市）

概況・ライン調査の講習（綾部市）

堆積有機物採取の講習（綾部市）

化学分析試料採取の講習（綾部市）

講習会終了の挨拶（綾部市）